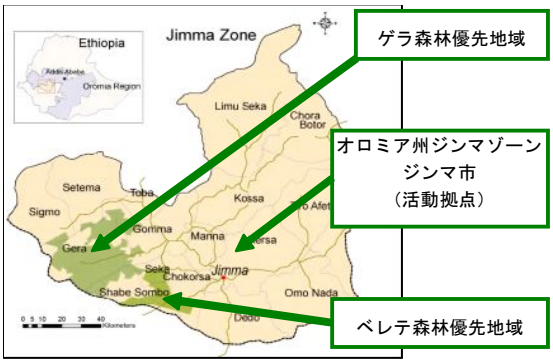
WaBuB PFM News

～Respect Local People's Knowledge for Sustainable Forest Management～

JICA 技術協力プロジェクト
エチオピア　ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画フェーズ2
2007年9月15日発行（第 10 号）



WaBuB Field School が始まります！

前号の「WaBuB の実施・普及における3本柱」でご紹介した「生計向上活動」の1つ、農業生産性向上支援（WaBuB Field School ：WFS）をベレテ・ゲラに導入するため、8 月末までの 6 週間にわたり、ゲラ、シャベ・ソンボ郡の普及員を対象とした研修を実施しました。今回研修を受けた約 70 名の普及員が、WaBuB の組織化を進めているそれぞれの集落において、WFS を実施していきます。1 年間にわたる毎週のセッションをどれほどの普及員がこなしていけるか未知数ですが、プロジェクトとしては出来る限り普及員や住民の声を反映させながら支援していく予定です。今号では、この WFS の活動内容や流れについて、ご紹介していきたいと思います。

ベレテ・ゲラ NOW　～ 農民の　農民による　農民のための学校！？ ～

ベレテ・ゲラに暮らす多くの住民が、農業を主な生計としています。例えばベレテ森林のメティ集落の場合、雨期が始まる 2 月頃に農地にメイズ（トウモロコシ）を植え、5～6 ヶ月で収穫します。その後、同じ農地で引き続き、テフ（主にエチオピア北中部で主食とされているインジェラの原料）を 8 月頃に植え、約 3 ヶ月で収穫します。乾期に入る 10～1 月頃は、森の中でのコーヒー収穫作業に追われます。このような農業を中心として動く住民の生活全体を見据えつつ、森林の保全管理に結びつくような農業・土地利用の方法を促進していくことが重要になります。農民は、1年間の WFS をとおして、改良農業や苗畑、アグロ・フォレストリといったことを学んでいきます。

＜WaBuB Field School における 1 年間の流れ＞

WFS グループの結成
各集落の WaBuB 登録者から WFS に興味を持つ住民が集まり、抽選を行い、男女各 16 名、計 32 名の WFS メンバーを選出します。

毎週の WFS セッション
WFS は各集落の代表者が提供する農地で実施されます。身近な材料を用いて実施するため、技術やコストが農民の身の丈にあっており、修得した技術をすぐに自分達の土地で実践できるのが特徴です。

毎週の観察・分析
1 年間を通して作物や苗木を共同で育て、種類や品種による生育状況や害虫による被害の違いなどを、毎週決まった時間に観察・分析します。分析した内容を各グループが発表し、WFS メンバーの間でアイデアや技術を共有する仕組みです。

WFS グループへの支援
毎週のセッションは基本的に普及員が進行支援しますが、郡の森林官やプロジェクトスタッフも定期的に各 WFS をまわり、技術的なサポートを行います。

WFS 参観日
同集落や周辺集落の住民を招待して WFS で学んだことを発表し、経験や知識を広く共有します。

農民エキスパートの育成
1 年間の WFS を卒業した農民がエキスパートとなり、集落での WFS を農民自身で実行できるよう育成を目指します。

森林が荒廃する原因として、ベレテ・ゲラで多いのが「農地の拡大」と「家畜の侵入」です。ベレテ・ゲラには比較的肥沃な土壌が広がっている他、雨量も多いため、他のエチオピアの地域に比べて農作物の生産が多い方です。化学肥料や農薬など全く使っていない所が多く、ほぼ全てがいわば有機農業を実施していると言えます。しかし、いくら肥沃でも上記のように連続して作物を栽培していると、お金の貯蓄と同じで次第に養分が減り、それに伴って農業生産も減少します。そうなると、多くの農民が森林を伐採して農地を広げたり、牛・ヤギなど家畜生産に切り換えたりして、森林の草地化を促進させてしまいます。こうした背景において、WFS をとおして、農民が農業や苗畑に関する知識・技術を向上し、メイズなど作物の単一栽培でなく、肥沃効果のある樹木を組み合わせて植えることや、市場価値の高い野菜や果物の導入をはかることを奨励します。その結果、各農民が現在所有している農地からの生産量や収入を増やし、農地を拡大させることなく（その結果、森林への負荷を軽減する）、生計を向上させることができるような仕組みをつくることを大きなねらいとしています。

WaBuB は、現地オロモ語で（地域住民により組織される）森林管理組合の略称、PFM(Participatory Forest Management)は参加型森林管理の略称です。よって、WaBuB PFM は、本プロジェクトが確立・普及を目指す WaBuB による参加型森林管理方法を意味します。

普及員を対象とした WFS 研修

WFSをベレテ・ゲラ森林優先地域全体に導入するための準備として、普及員を対象とした研修を実施しました。この研修の主な目的は、各集落で WFS を行うための「ファシリテーター」の育成です。ファシリテーターというのは、WFS を主体的に実施する農民の背中を押し、状況に応じて適切な支援を行う役割を担います。WFS に参加する農民は交代で毎週の議事進行から時間割の管理を行い、グループによる作物・苗木の観察・分析を行います。参加者は、この1年を通した毎週の WFS セッションを通して、農業、苗畑に関する新たな知識を習得し、また、森林管理に関わる組織活動や問題解決能力の向上にもつながっていきます。

バケツへ石を投げ入れ、比較試験の留意点を学ぶ

毎週のセッションを行なっていくには、WFS の手順や方法にとどまらず、どのようにグループ活動を効果的に実施するか、農民の参加を促進するか、円滑な意思決定を行うか、といったファシリテーターの資質や留意点についても心得ておくことが重要です。そこで、この研修には多くのグループワークや実習が盛り込まれているのが特徴です。 グループによる WFS 時間割の作成や作物・苗木の観察・分析（Agro-Ecosystem Analysis: AESA）の実施、WFS の「教材」となる実験圃場の作成といった WFS の実施方法そのものに加え、農地や庭先に落ちている石ころを投票用紙に見立てた、多数決による意思決定方法、紙で作ったボール(Talk Ball)を用いて、皆が等しく発現の機会を与えられるように工夫する方法などを学びました。

作物の観察・分析方法についての実習

特に面白いと思ったのは、大きさの違うバケツへ石を投げ入れるのを競うことで、同じ大きさ（条件）のバケツ（実験圃場）を用いることの重要性、すなわち土壌や傾斜などの条件が同じ場所で作物や苗木の比較試験を行うことをどう農民に分かり易く理解してもらうかを学びました。

農地でのレイアウト実習

以上のような内容を2週間にわたって研修し（参加者を3グループに分けたため、全体の研修期間は計６週間）、普及員や郡の森林官など計92名が修了しました。この WFS はエチオピア国内では実施例がほとんど無く（オロミア州内では初めて）、実際にどれほどベレテ・ゲラの村々で普及できるのか（農民に受け入れられるのか）、始めてみないとわからないというのが本音です。１番の不安要素は、ベレテ・ゲラの場合にはやはり対象集落へのアクセスです。最も近い集落でも、道路から歩いて山道を1時間程、ほとんどの集落が馬や徒歩で4～5時間を要する場所にあります。ケニアからの4名のトレーナー達も、このアクセスの悪さには驚いていました。不安要素を出来る限り克服するため、普及員や農民たちとの信頼関係を築き、郡行政官とも連携して、WFS 実施に向けたサポート体制を確立していきたいと思っています。

修了式では WaBuB 帽子と T シャツを授与

森林コーヒーの認証に向けた活動開始！

前号で森林コーヒーの認証に向けたトレーニングの実施について紹介しましたが、いよいよゲラ森林のアファロ、グラ、ベレテ森林のメティ集落においてメンバーの登録とコーヒー林の踏査が始まりました。認証のためには、日本でおなじみの ISO 環境認証と同様に内部監査システムが確立され、適切に機能していることが重要な基準になります。コーヒー認証の場合、WaBuB メンバーの代表者によって監査委員会が組織され、その委員が主体となってメンバーの登録を行ない、各メンバーが森林保全に留意しつつ適切な森林コーヒーの栽培を行っているかどうか、収穫量がどのくらいか等、森の中のコーヒー林を実際に廻って確認します。

監査委員と普及員によるコーヒー林の踏査作業

読み書きのできない委員もいる他、こうした組織活動にも慣れていないためになかなか思うようには進まない点もありますが、10 月中旬に予定されている認証監査までには、全ての準備作業を終えられるよう支援をしていく予定です。（森林コーヒーの認証については、次号でより詳しくご紹介します）

ベレテ・ゲラの有用樹種

Avocado (*Persea americana*)

アフリカの熱帯地域には様々な果物が溢れているイメージがありますが、標高が約 1800～2200m と高いベレテ・ゲラはアフリカ山地林(Afromontane Forest)という分類に位置され、近隣の東アフリカ諸国に比べると、それほど果物が豊富というわけではありません。バナナやマンゴー、カスタードアップルなどは時季になると幾らか市場に並びますが、最もよく見られる果物はアボカドです。甘みは大して無いものの、タンパク質などの栄養価が高く、果物に加え野菜の栽培も少ないベレテ・ゲラ地域の住民にとっては、数少ない栄養補給源の１つと言えます。

品種改良された栄養価の高い品種を導入することも WFS のねらいの１つ

もともと果物の種類が少ない影響もあってか、接ぎ木など品質を高めるための技術も全くと言っていいほど普及しておらず、品種もかなり少ないようで、病虫害の影響を受けているアボカドをよく見かけます。WFS では、例えばローカル品種と改良品種のアボカドを比較してもらい、改良品種の良さ（病虫害への抵抗力、栄養価の高さ、成長の早さなど）を認識してもらった上で、農家への導入を支援していくこともねらいとしています。

10 月中旬までの主な活動予定：
9/18：萩原短期専門家着任
9/23～10/5：普及員を対象とした WaBuB Field School 技術研修の実施
～9/末：森林コーヒー認証取得に向けた参加農民の登録・認証審査準備
10/中旬：WaBuB Field School グループ・オリエンテーションの実施
10/中旬：森林コーヒー認証審査

発行元：ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画フェーズ 2　ニュースレターやプロジェクトへのご意見・ご感想もお待ちいたしております。
E-mail: belete-gera@ethionet.et（担当：西村、吉倉）　URL: http://project.jica.go.jp/ethiopia/0604584/